

梵珠ガイド会通信

2021年06月25日号

自然ふれあい
ボランティアガイド会

■ アカゲラの道ガイドマニュアル作成のための現地調査



塹壕跡？を歩く



赤い破線が塹壕跡

6月19日、アカゲラの道ガイドマニュアル作成のため、当会が現地調査を実施しました。アカゲラの道は、沢内沢を挟み梵珠山と向かい合う尾根に開かれた周回コース。急な坂を登り切り尾根にとりつくと生え揃ったブナの二次林が出迎え、早春のブナの芽吹きがすばらしい。

このコースのメインは、ミズナラとクリの老木が並んでいる双子の木と塹壕跡らしきミステリー。今回は、この塹壕跡らしき溝をGPSを持参し歩き、それを地図に落とし込み距離を求めてみたところ372mであることを確認しました。この溝が、何のために掘られたのか記録も無く、塹壕ではないか、また山火事が燃え広がらないように掘ったのではないかと、はたまた、尾根が急斜面のため重さに耐えきれなくなり引き裂かれたのでは？とか諸説いろいろ。上図の赤い破線が塹壕跡らしきものです。トンボ谷地とオシドリ池(人工池)は、国土地理院の1/25,000の地図には記載されていませでしたが、最近の国土地理院図(国土Web)には、この2つの池が記載されています。

調査当日のトンボ谷地では、エゾイトトンボが数匹舞いモリアオガエルの白い卵塊が木の枝に産みつけられていました。双子の木の近くにある皿ー4の標柱がクマに最近かじられた跡がありました。

キャンプ場に降りていく途中、コース近くに幹周りが3.7mと3.3mのブナの巨木も確認。会員の日下氏は、ホウノキの枝先の葉で風車をつくって見せてくれました。

このマニュアルができると、サワグルミ、マンガンの道に続き3コースとなります。



クマがかじった標柱



幹周り3.7m



ホウノキの葉で風車

■ テーマ：「地形と植生」「攪乱と植生」～自然保護課主催ガイド研修～



地滑り地形での植生 ～サワグルミの道～

5月29日、自然ふれあいセンターで県自然保護課主催のボランティアガイド研修が開催されました。今年、県から委嘱されたガイド16名を対象にしたもので、午前中は、ふれあいセンター村松館長による「ぼんじゅの沿革とガイドの活動について」と題した座学研修があり、午後は、野外での実地研修。講師は青森自然誌研究会会長の齋藤信夫氏で、「地形と植生」と「攪乱と植生」をテーマに研修。

サワグルミの道のコースを歩き、地滑り地形では、ブナやミズナラなどの大木は育たず、サワグルミは、沢沿いや地滑り斜面の下の砂礫や土砂の堆積地など攪乱に結びつく場所に多く分布している。また、尾根から沢までトチノキが密生しているところは、以前に地滑りがあり、その後、トチノキが育った所である。3合目の六角堂手前で、登山道を挟み植生調査を実施。山側では40種類の草木があり、沢よりでは、草刈りを毎年実施していることから攪乱され、ノブキやオオバコなどが見られる。

梵珠山は、観察路ごとに特徴的な植生が観察でき、地形と植生の対応がわかりやすい所です。

どうしても登山道の足下の草木に目がいきがちですが、今回の研修で地形と植生の関係や、生物と環境を意識した自然の見方が大切であることを実感しました。



登山道の崩落箇所



現地植生調査

■ ボランティアガイド 1名新加入しました

今回新たに、齋藤千佳子さん（五所川原市）が、ボランティアガイドとして加入されました。この度のガイド研修にも参加し、これからの活動が期待されます。宜しくお願い致します。

